



堺幕府中、  
最強の軍隊を率いた三好家の棟梁



三好元長 画像(坂東義雄氏所蔵)

みよし もとなが  
**三好 元長** (1501~1532)

ぶんき あわ ちくぜんのかみ かいうん  
文亀元年(1501)阿波の国で生まれる。幼名は千熊丸。筑前守と称し、後に剃髪して開運(海雲)と号した。当時三好家は阿波細川家に仕える豪族であったが、祖父の三好之長の代に畿内進出を果たす。しかしその之長が永正17年(1520)に細川高国との戦いに敗れて刑死した後は、元長が三好家を相続した。

その後元長は、畿内の混乱に乗じて大永6年(1526)足利義維・細川晴元を擁し阿波で挙兵。翌年、京都の戦乱によって室町幕府の将軍・足利義晴と管領・細川高国が近江に逃亡したのを契機に、堺に上陸して堺幕府樹立に貢献する。

元長は山城守護代に任ぜられ、京都の掌握に尽力する一方、堺幕府軍の最高司令官として室町幕府軍と度々戦った。元長率いる阿波衆の軍勢は都の人々に「四国衆の強勢恐るべし」と言わしめる程の武勇を示した。

享禄4年(1531)には仇敵・細川高国を摂津欠群における戦いで滅ぼし(大物崩れ)、畿内の趨勢は決したかに見えたが、その後の内部対立によって堺幕府は瓦解していく。

元長の主君である細川晴元は彼を疎み、未だ将軍になっていない足利義維を見限って、逃亡中の現将軍・足利義晴を政権内に迎えようとしたのである。ここに至って堺幕府は真っ二つに分裂し対立することとなった。

一時は元長側が優勢であったが、晴元側にそそのかされた本願寺一向一揆の軍事介入によって形勢は逆転。最後は10万ともいわれる一向一揆の大軍に包囲され、堺の顕本寺で自害した。享年32歳。

元長が切腹した時、自らの腹を十文字に切り、無念のあまり腸を本堂の天井に投げつけたとの言い伝えがある。その血痕は後の大坂一乱(大坂夏の陣)で顕本寺が戦災に遭うまで残っていた。



**顕本寺へのアクセス**

- 南海本線 堺 駅より徒歩 25分
- 南海高野線 堺東駅より徒歩 25分
- 阪堺線 宿院駅より徒歩 10分

**問い合わせ先**

元長忌実行委員会(菅原)  
大阪府堺市堺区宿院町東4丁1番30号 顕本寺  
TEL・FAX 072-232-3964

**お食事会 申込書**

氏名	お食事会 (○で囲んで下さい)	参加	不参加
----	--------------------	----	-----

住所・電話番号